

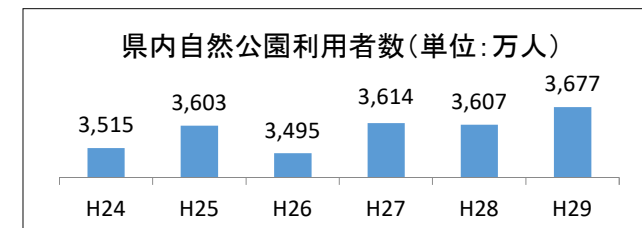
# 自然公園内の廃屋撤去促進について

## 長野県の状況

【環境省】

### ●「世界水準の山岳高原観光地」の実現に向けた魅力ある自然公園づくり

- ・豊かな自然環境を有する本県は、県土の約21%（27万9千ha：全国3番目）が自然公園に指定され、毎年3,500万人の利用者が自然公園を訪問する。
- ・インバウンドや山岳のユニバーサルツーリズム、上質な自然体験など、多様化する利用者のニーズに応じた魅力ある自然公園づくりが必要



### 取組

- 「国立公園満喫プロジェクト」と連動し、外国人や障がい者など多様な利用者を呼び込み、活力ある自然公園を目指すため、「ハード整備」、「ソフト充実」及び「体制づくり」の3方向から自然公園のグレードアップを展開

県内の外国人延宿泊者数(単位:万人)

年度	H24	H25	H26	H27	H28	H29
延宿泊者数(万人)	28.8	54.3	66.0	94.7	113.5	129.0

### 「自然公園グレードアップ構想」による魅力向上

#### ハード整備



登山道



トイレ



道標



ユニバーサル  
デザイン  
の視点からも  
推進

#### ソフト充実



エコツーリズムの普及・拡大



希少種保全



外来種対策

#### 体制づくり



条例を改正し  
公園計画に  
地域の意向を反映

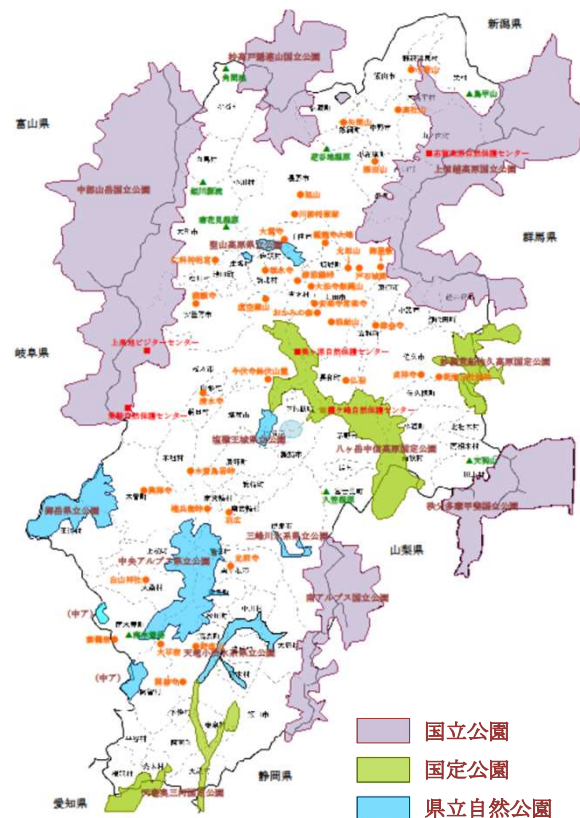
協働型管理運営体制の構築



外部意見を取り入れ  
地域の魅力を再発見

公園事業による施設整備を推進

### 自然公園の魅力向上



# 課題

- 登山道危険箇所の解消や山小屋トイレのし尿処理率向上等、自然公園内の施設整備は一定の成果を上げているが、**近年、使用されなくなった宿泊施設等が放置され、廃屋問題が顕在化**
- 自然公園を活用した地域振興が行われる中、**廃屋は景観の支障となるほか、治安と安全の両面について、地域住民や観光客から不安の声が寄せられている。**
- 市町村が行う廃屋撤去に対する国の支援策は、国土交通省の「空家対策総合支援事業」等があるが、市町村は危険性の高い市街地の空家対策を最優先に対応しており、財源が限られる中、**自然公園内の廃屋対策は後回しにせざるを得ない。**
- 観光地でもある自然公園内の景観改善には、現状の支援策では限界があり、**自然公園内の廃屋対策に特化した手厚い支援策が必要**
- その他設置者不明で老朽化した標識の撤去等を含め、**エリア全体の面的な景観改善のため、総合的な支援制度が求められる。**



営業停止後に廃墟化したホテル



H29に撤去された  
志賀高原・蓮池ホテル  
(跡地は満喫Pで活用)



老朽化した標識が  
景観の支障に



麻績の旧ホテル聖解体へ  
来月にも再活用策を検討

麻績町の旧ホテル「聖」が、来月にも解体される。解体後は、再活用策を検討する。町は、解体費用の一部を補助する。また、解体後の跡地は、観光施設として活用する。町は、解体費用の一部を補助する。また、解体後の跡地は、観光施設として活用する。

麻績の旧ホテル聖解体へ  
来月にも再活用策を検討

麻績町の旧ホテル「聖」が、来月にも解体される。解体後は、再活用策を検討する。町は、解体費用の一部を補助する。また、解体後の跡地は、観光施設として活用する。町は、解体費用の一部を補助する。また、解体後の跡地は、観光施設として活用する。

市町村が  
独自財源で  
廃ホテルを  
撤去

## 提案・要望

### 1 自然公園内の景観改善に向けた新たな総合的支援制度の創設

既存制度や支援策の課題点を考慮し、地方公共団体等の行う自然公園内の景観改善に特化した廃屋撤去や、老朽化した標識や看板の撤去、電線の地中化等に対する財政措置を創設するなど、「引き算の景観改善」推進に向けた新たな総合的支援制度を創設すること。

### 2 施設の廃屋化を未然に防ぐ仕組みの構築

自然公園内の施設の廃屋化を未然に防ぐため、公園事業者の経営実態を把握し、健全な事業執行を確保する仕組みを構築すること。